

「女賢（さか）しうして牛売り損う」という諺があるが、これは亭主を釜ゆでにした愚かな妻の聞くも哀れな妻の物語である。（坂内萬の手記より）

第九章 子供の遊び

一、子供の遊びの変遷

子供は大人の生活の鏡のようなもので、家庭がずさんでくると、子供の遊びも乱暴になるし、時代の推移もよく写し出している。民具や玩具なども並べてみると、子供の生活の変遷がよくわかるが、北会津村で独特に生産されたり、特異な使い方も目立たないので、子供の遊びのいくらかの変遷をみようと思う。

子供が両親の野良の仕事につれだされ、野の自然の玩具、即ち草花をつんでままごとをするとか、粘土をこねて物真似をつくるとかの、自然と生活に直結した遊びは失いかけていようであるが、どうであろうか。機械化農業、化学肥料、農薬の発明は、農業の一つの大いなる進歩には違いないが、子供はうっかり野良につれて行けなくなったし、一步誤れば農薬などで病害をさそうことさえある。

つぎは時代の変遷が、ラジオ・テレビなどの普及によって、あまりに一律に、郷土的特色と無関係に、早く一色に塗りつぶしてしまうことが惜まれる。映画の影響などが強く、剣撃の真似をされて困ったと思ったら、今度はテレビの影響で、伊賀物などの忍者の物真似や、宇宙時代の玩具などを、意味も深く知らないでいじり廻している。